2023年６月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2022年11月14日

上場会社名　株式会社ビューティ花壇　上場取引所　東
コード番号　3041　URL　http://www.beauty-kadan.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　（氏名）舛田正一
問合せ先責任者　（役職名）専務取締役経営管理本部長　（氏名）三島まりこ　（TEL）096-370-0004
四半期報告書提出予定日　2022年11月14日　配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：無
四半期決算説明会開催の有無　：無

（百万円未満切捨て）

１．2023年６月期第１四半期の連結業績（2022年７月１日～2022年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年６月期第１四半期	1,522	17.38	△38	―	△35	―	△39	―
2022年６月期第１四半期	1,297	4.2	△48	―	△39	―	△43	―

（注）包括利益　2023年６月期第１四半期　△37百万円（　―%）　2022年６月期第１四半期　△42百万円（　―%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円　銭	円　銭
2023年６月期第１四半期	△9.66	―
2022年６月期第１四半期	△10.69	―

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年６月期第１四半期	2,430	417	17.2
2022年６月期	2,435	522	20.1

（参考）自己資本　2023年６月期第１四半期　417百万円　2022年６月期　488百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭
2022年６月期	―	0.00	―	8.53	8.53
2023年６月期	―				
2023年６月期（予想）		0.00	―	11.11	11.11

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

３．2023年６月期の連結業績予想（2022年７月１日～2023年６月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	6,150	5.0	110	6.1	110	△14.4	90	4.3

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動　：無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規　—社（社名）—　、除外　—社（社名）—

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無

②　①以外の会計方針の変更　：無

③　会計上の見積りの変更　：無

④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年６月期１Ｑ	5,076,000株	2022年６月期	5,076,000株
②　期末自己株式数	2023年６月期１Ｑ	1,026,552株	2022年６月期	1,026,552株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2023年６月期１Ｑ	4,049,448株	2022年６月期１Ｑ	4,049,448株

※　四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は経済状況等の様々な不確定要素によりこれらの予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 ……2
（１）経営成績に関する説明 ……2
（２）財政状態に関する説明 ……3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 ……3
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 ……4
（１）四半期連結貸借対照表 ……4
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 ……6
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 ……8
（継続企業の前提に関する注記） ……8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） ……8
（セグメント情報等） ……9
（収益認識関係） ……9
（追加情報） ……9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期連結累計期間（2022年７月１日から2022年９月30日まで）におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限が緩和され経済活動の正常化が進み、景気回復の兆しが見られましたが、円安の進行、エネルギー価格高騰のほか、物価高による消費マインドの低下に加えて、ロシア・ウクライナ情勢の長期化等により依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような状況の中、当社グループは２年目を迎えた中期経営計画に掲げる「既存事業の収益性改善と新規事業の創出により持続的な成長を実現し、企業価値向上・株価上昇へつなげる」ことを基本方針として「コア事業での売上拡大」「事業基盤強化」「新サービス開始・新規事業の拡大」「企業価値向上」を重点戦略とし取り組んでおります。

この結果、各事業ともに引き続きコロナ禍から総じて回復基調にあったことや生花卸売事業において販売単価が上昇したこと等から、当第１四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、1,522,547千円(前年同期比17.4％増)、営業損失は、38,501千円(前年同期は48,054千円の損失)、経常損失は35,831千円(前年同期は39,124千円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純損失は39,122千円(前年同期は43,306千円の損失）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

(生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、817,766千円(前年同期比11.2％増)となりました。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、葬儀業の2022年７月から2022年８月までの売上高、取扱件数ともに、コロナ禍の影響を大きく受けた前年同期比では増加傾向で推移しているものの、葬儀単価につきましては下落傾向で推移しています。

このように葬儀業全体では市場は今後も拡大傾向にある一方で、全国的に進む「家族葬」や「密葬」、「一日葬」等葬儀の小型化とともに単価の下落傾向に加え、引き続き新型コロナウイルスによる影響への対応が求められる状況となっております。

このような状況の中で、当事業では中期経営計画に基づく戦略の実行と葬儀の縮小傾向に対応した新たなサービス展開（@葬儀：アットそうぎ）や新商品販売等を実施してまいりましたが、急激な円安を背景とした原価高騰の影響を受け営業利益は36,768千円（前年同期比22.9％減）となりました。

(生花卸売事業)

生花卸売事業は、100％子会社であるマイ・サクセス株式会社において、これまで進めていた業務効率化に加え、当社グループとしての更なる競争力強化を図っておりますが、当期間におきましては、コロナ禍から回復傾向にあったことや天候不良による供給量の減少、並びに円安の影響により販売単価が上昇し、売上高は533,616千円(前年同期比30.4％増)となりました。東京都中央卸売市場「市場統計情報」（2022年９月)によると、2022年７月から2022年９月までの切花累計の取扱金額は17,334百万円（前年同期比13.6％増）、数量では223百万本(前年同期比2.6％増)と金額ベース、数量ベースともに増加し１本あたりの単価は上昇傾向で推移いたしました。

このような状況の中で、当事業では引き続き生花卸売事業（国内流通）と生花祭壇事業とのシナジー追求を図りながら抜本的な物流体系の改革へ向けた取り組みを実行しつつ、合わせてコロナ禍の影響を最小化するための対応を実施した結果、営業利益は10,043千円（前年同期は1,165千円の損失）となりました。

(ブライダル装花事業)

ブライダル装花事業の売上高は、新型コロナウイルス感染拡大による結婚式の延期等により厳しい状況が続いておりましたが、徐々にキャンセル件数が大幅に減少する等回復基調で推移したことから64,676千円(前年同期比17.0％増)となりました。少子化による結婚件数の減少と、「ナシ婚」ともいわれる婚姻届のみの結婚の増加等により、ブライダル業界の市場規模は縮小傾向にあるものの、晩婚化による結婚式単価の上昇や、ゲストハウス・ウエディングやレストラン・ウエディング等オリジナル挙式志向の高まりを背景に新規参入企業が増加するなど、これまでは大きな市場規模が保持されていましたが、昨今のコロナ禍の影響を受け、同市場規模は大幅な縮小が際立つ結果となりました。

このような状況の中、同事業を請け負う連結子会社の株式会社One Flowerでは、東京・関西・九州エリアにおける既存顧客・エリアへの深堀による受注増、同エリアでの新規取引先拡大、リテール部門の売上拡大に取り組んで

まいりました。その結果、未だコロナ禍の影響は続くものの赤字幅は縮小し、営業損失は8,867千円(前年同期は14,782千円の損失)となりました。

(その他の事業)

その他の事業は、システム開発事業、冠婚葬祭に関する企画並びにコンサルタント業務、就労継続支援事業、農業を行っております。当第１四半期連結累計期間においては、総じてコロナから回復基調にあったことから、売上高は106,488千円（前年同期比9.3％増）となりました。利益面におきましては、売上が増加し全ての事業において前期比で増益となったことにより、営業損失は8,201千円（前年同期は14,223千円の損失）となりました。

（２）財政状態に関する説明

当第１四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ4,206千円減少し、2,430,855千円となりました。これは主に、現金及び預金の減少によるものであります。

当第１四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べ101,130千円増加し、2,013,297千円となりました。これは主に、借入金の増加によるものであります。

当第１四半期連結会計期間の純資産は、前連結会計年度末に比べ105,337千円減少し、417,557千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少によるものであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年６月期の通期の業績予想につきましては、2022年８月15日に公表いたしました連結業績予想から、現時点においては変更はありません

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2022年６月30日)	当第１四半期連結会計期間 (2022年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	950,449	873,142
売掛金	510,736	573,676
商品	21,972	30,902
仕掛品	2,713	4,066
原材料及び貯蔵品	39,913	42,163
その他	52,865	60,282
貸倒引当金	△3,926	△4,927
流動資産合計	1,574,725	1,579,306
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	653,067	653,067
減価償却累計額	△309,616	△316,109
建物及び構築物（純額）	343,450	336,957
車両運搬具	23,968	24,635
減価償却累計額	△22,168	△22,788
車両運搬具（純額）	1,799	1,846
工具、器具及び備品	145,440	147,099
減価償却累計額	△135,626	△136,648
工具、器具及び備品（純額）	9,814	10,451
土地	221,424	221,424
その他	15,942	15,921
減価償却累計額	△11,555	△11,766
その他（純額）	4,386	4,155
有形固定資産合計	580,875	574,834
無形固定資産		
のれん	8,343	7,926
その他	1,523	1,149
無形固定資産合計	9,867	9,075
投資その他の資産		
差入保証金	52,141	53,049
保険積立金	188,538	188,538
破産更生債権等	8,708	8,708
その他	28,914	26,050
貸倒引当金	△8,708	△8,708
投資その他の資産合計	269,594	267,638
固定資産合計	860,337	851,548
資産合計	2,435,062	2,430,855

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2022年６月30日)	当第１四半期連結会計期間 (2022年９月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	167,478	260,154
短期借入金	350,000	430,000
1年内返済予定の長期借入金	183,558	183,557
1年内償還予定の社債	7,400	3,850
未払金	70,371	70,170
未払法人税等	25,214	7,292
未払費用	126,008	102,488
賞与引当金	698	26,427
資産除去債務	10,000	10,000
その他	109,962	102,827
流動負債合計	1,050,692	1,196,767
固定負債		
長期借入金	767,377	721,325
リース債務	953	733
退職給付に係る負債	75,948	77,275
資産除去債務	17,196	17,196
固定負債合計	861,475	816,530
負債合計	1,912,167	2,013,297
純資産の部		
株主資本		
資本金	213,240	213,240
資本剰余金	142,056	144,268
利益剰余金	362,285	288,621
自己株式	△228,633	△228,633
株主資本合計	488,948	417,495
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△4	62
その他の包括利益累計額合計	△4	62
非支配株主持分	33,951	－
純資産合計	522,894	417,557
負債純資産合計	2,435,062	2,430,855

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 2021年７月１日 至 2021年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 2022年７月１日 至 2022年９月30日）
売上高	1,297,165	1,522,547
売上原価	1,147,011	1,357,654
売上総利益	150,153	164,893
販売費及び一般管理費	198,207	203,395
営業損失（△）	△48,054	△38,501
営業外収益		
受取利息及び配当金	11	10
受取賃貸料	259	254
補助金収入	9,204	4,921
その他	2,581	2,205
営業外収益合計	12,057	7,390
営業外費用		
支払利息	2,693	2,200
為替差損	142	2,411
その他	291	109
営業外費用合計	3,127	4,720
経常損失（△）	△39,124	△35,831
特別利益		
固定資産売却益	－	18
投資有価証券売却益	－	20
特別利益合計	－	38
特別損失		
固定資産除売却損	70	－
リース解約損	－	1,230
特別損失合計	70	1,230
税金等調整前四半期純損失（△）	△39,194	△37,023
法人税、住民税及び事業税	4,678	3,383
法人税等還付税額	△1,129	△2,544
法人税等調整額	0	0
法人税等合計	3,548	838
四半期純損失（△）	△42,743	△37,862
非支配株主に帰属する四半期純利益	562	1,260
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△43,306	△39,122

四半期連結包括利益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第１四半期連結累計期間 （自 2021年７月１日 至 2021年９月30日）	当第１四半期連結累計期間 （自 2022年７月１日 至 2022年９月30日）
四半期純損失（△）	△42,743	△37,862
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	67
その他の包括利益合計	7	67
四半期包括利益	△42,736	△37,795
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△43,299	△39,055
非支配株主に係る四半期包括利益	562	1,260

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

前第１四半期連結累計期間（自　2021年７月１日　至　2021年９月30日）

１．配当金支払額

該当事項はありません。

２．基準日が当第１四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第１四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第１四半期連結累計期間（自　2022年７月１日　至　2022年９月30日）

１．配当金支払額

決　　議	株式の種　類	配当金の総額(千円)	１株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年９月28日 定時株主総会	普通株式	34,541	8.53	2022年６月30日	2022年９月29日	利益剰余金

２．基準日が当第１四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第１四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第１四半期連結累計期間(自　2021年７月１日　至　2021年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	生花祭壇事業	生花卸売事業	ブライダル装花事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	735,258	409,172	55,278	1,199,709	97,455	―	1,297,165
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,540	197,773	389	199,703	12,105	△211,809	―
計	736,799	606,946	55,667	1,399,413	109,561	△211,809	1,297,165
セグメント利益又は損失（△）	47,703	△1,165	△14,782	31,755	△14,223	△65,585	△48,054

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業、冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業、就労継続支援事業並びに農業であります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△65,585千円には、セグメント間取引消去13,392千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△78,978千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第１四半期連結累計期間(自　2022年７月１日　至　2022年９月30日)

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント				その他（注）１	調整額（注）２	四半期連結損益計算書計上額（注）３
	生花祭壇事業	生花卸売事業	ブライダル装花事業	計			
売上高							
外部顧客への売上高	817,766	533,616	64,676	1,416,059	106,488	―	1,522,547
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,350	267,393	442	269,185	15,672	△284,858	―
計	819,116	801,009	65,118	1,685,245	122,161	△284,858	1,522,547
セグメント利益又は損失（△）	36,768	10,043	△8,867	37,943	△8,201	△68,244	△38,501

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業、冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業、就労継続支援事業並びに農業であります。

２．セグメント利益又は損失（△）の調整額△68,244千円には、セグメント間取引消去14,414千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△82,658千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載の通りであります。

（追加情報）

新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積りにおいて、前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載いたしました仮定に重要な変更はありません。